

平成 29 年度墨田区立竪川中学校経営報告書

平成 30 年 3 月 12 日

学 校 目 標	徳育・知（智）育・体育の調和のとれた、人格の形成をめざす
目 指 す 学 校 像	授業が充実し、生徒と生徒、生徒と教職員の間に信頼関係のある学校 チーム竪中として、クワトロゼロ（いじめ・不登校・校則違反・残業）をめざす
目 指 す 子 供 像	①心豊かな、美しい感性をもった生徒 ②意欲的に学習する生徒 ③たくましく、何事もやりぬく生徒
目 指 す 教 師 像	人権意識を高め、生徒や保護者に寄り添い、現実を直視し情熱をもって職務を遂行する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	授業改善プランの実施状況に対して、自己点検を行う。その結果を全員で共有し、更なる改善を目指す。	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	特別支援教育推進委員会の機能を充実させる。特別支援教室開設に向けて、準備を始める。	A	A
	学校は、子供の将来の自立に向けた教育活動・相談活動に取り組んでいるか。	A	年6回のいじめアンケートや、教育相談期間で得た情報を全教職員で共有する。	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	四つの研究指定校としての成果を次年度に生かす。特に、理科教育に焦点を当てて研究を進める。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	外部にとってわかりにくい面もあるが、良く努力している。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	現在の落ち着いた状況をさらに向上させる。そのために、生徒自らが考える自治活動をさらに活発化させる。	A	A
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	A	考える道徳・議論する道徳の実践を推し進め、全教科・領域で道徳教育が行えるよう、「別業」を全教員で作成する。	A	A
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	避難訓練時だけでなく、日頃から防災教育に取り組む。	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	A	保護者アンケートの年三回実施を継続し、情報共有をするとともに、改善策を全員が考え実践する。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	防災講話の取り組みやいじめアンケートの実施など、計画的に取り組んでいる。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針のもとに、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	組織としての改善策を全員のものとし、一人一人がそれぞれの役割を果たす。主幹・主任が教員を指導する OJT を実践する。	A	B
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	学校評価だけでなく、普段からの生徒の様子を全員が共有することをさらに進める。	A	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	概ね施設・設備は整っているが、それをさらに活用するために、人的環境の充実を図る。	A	B
	学校関係者評価委員会の意見等	校長の方針が分かりやすく伝わっている。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	A	学校便り・学年便りの発効は定期的に行われている。それが、全部の保護者に伝わるように生徒を指導していく。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	A	地域の協力は現状でも十分であるが、一部の方に偏ることのないよう配慮していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	地域の回覧板で学校便りを回覧していることが、伝わり易い元になっている。			

2 平成29年度学校評価のまとめ

チーム堅中として、3年が経過し、その取り組みもより充実してきた。特に29年度は、残菜ゼロを目指す食育に全校で取り組み大きな成果を上げた。また、道徳教育推進拠点校として、研究授業やリーフレットの作成も行うことが出来た。

次年度に向けて、更なる学力向上を目指すとともに、学校全体を組織的に機能させていく。そのために、主幹・主任の役割分担を明確にし、それぞれの組織が機能的に仕事を出来るようにする。

現在の状況に満足することなく、常に改善・改革を図るとともに、教育活動の取捨選択を行い、「ライフワークバランス」に配慮した学校経営を行う。

以上の通り報告いたします。

墨田区立堅川中 学校 校長 西村 均

